

## Oracle 内への SQL スクリプトのスケジュール登録

「DBMS\_JOB」パッケージ SUBMIT プロシージャ

```
DBMS_JOB.SUBMIT (
    job          OUT BINARY_INTEGER,
    what         IN  VARCHAR2,
    next_date   IN  DATE DEFAULT sysdate,
    interval    IN  VARCHAR2 DEFAULT 'null',
    no_parse    IN  BOOLEAN DEFAULT FALSE,
    instance    IN  BINARY_INTEGER DEFAULT any_instance,
    force       IN  BOOLEAN DEFAULT FALSE);
```

「パラメータ説明」

パラメータ	説明
job	実行するジョブの番号。
what	実行する PL/SQL プロシージャ。
next_date	ジョブを次回実行する日付。
interval	ジョブを次回実行する時間を計算する日付ファンクション。デフォルトは NULL です。 このファンクションは、将来の日時または NULL に設定される必要があります。
no_parse	フラグ。デフォルトは FALSE です。 FALSE に設定すると、ジョブに関連付けられているプロシージャが解析されます。 TRUE に設定すると、ジョブに関連付けられているプロシージャがそのジョブの初回実行時に解析されます。 たとえば、ジョブに関連付けられている表を作成する前にそのジョブを送信する場合は、この値を TRUE に設定します。
instance	ジョブの送信時にそのジョブを実行できるインスタンスを指定します。
force	TRUE の場合は、ジョブ・インスタンスとして正の整数がすべて受け入れられます。FALSE (デフォルト) の場合は、指定したインスタンスが実行している必要があります。

「Job の登録」

```
VARIABLE jobno number;
BEGIN
  DBMS_JOB.SUBMIT(:jobno,
    'dbms_ddl.analyze_object("TABLE",
    "DQUON", "ACCOUNTS",
    "ESTIMATE", NULL, 50);'
    SYSDATE, 'SYSDATE + 1');
  COMMIT;
END;
/
```

Statement processed.

print jobno

JOBNO

-----

14144